
教育及び実践の課題

教育現場の暴力、いじめ、ハラスメントなどが問題となっている。看護教育においても無礼な言動 incivility (インシビリティ) は教育学習環境の弱体化につながると危惧されている。さらに複数のレビュー論文において、看護学生が学んだ行動は職場環境や看護文化へ移行すると認識されている。看護教育における civility (シビリティ) の育成は重要な課題であり、シビリティの概念理解を深め、学生間、教員間、両者間で共通認識することが求められている。

活用した論文の概要

Woodworth (2016) は、シビリティの概念分析から、シビリティの「属性」は道徳的原則(徳、信頼、尊厳・尊敬)と専門職性(ロールモデル、説明責任、コミュニケーション、共同)から構成されることを示した。すなわち、シビリティは積極的な行動と属性の複合であり、コミュニケーション、対人関係、学習、患者アウトカムに影響を及ぼすとした。看護教育者は、教育学習環境において社会的に受け入れられる行動的期待を設定し、学生との良好な対人関係を確立し、道徳的および学問的完全性を維持し、シビリティ的行動を示さなければならないと結んでいる。

教育及び実践への活用

本学の初年次教育科目「看護大学ゼミナールI (以下、ゼミI)」では、「教員への報告・連絡・相談(報連相)」をグランドルールとして授業を展開してきた。そして学生の意識も高まり、教員の期待に沿う報連相が増えてきた。これまでの標語的な「キャンパスライフからインシビリティを無くそう!」という段階から、具体的な方略を展開する段階に進む必要がある。Woodworth (2016) は、クラスルールに敬意を払うという基本姿勢から、学生も教員もシビリティを維持する Exemplar (典型例) を提示した。これを手本に、ゼミIの典型例を試作し、科目担当者を含む教員間で討議を行った。その際、確認された点は、学生と教員が対話を通してクラスルールを創造するという方向性である。教育学習環境のさらなる質向上を果たす上で、教員に対する学生の信頼感を高める行動的期待に着目し、先行研究からシビリティを育む実践例をエビデンスとして取り入れ、積極的に活用する必要がある。

参考文献

Woodworth A.J. (2016). Promotion of Nursing Student Civility in Nursing Education: A concept Analysis. Nursing Forum , 51(3), 196-203.